

# 琉球病院 Monthly



独立行政法人  
国立病院機構 琉球病院  
National Hospital Organization RYUKYU Hospital

Vol.46  
2016. October

発行者 琉球病院事務部長  
有岡 雅之

## 基本理念

この病院で最も大切なひとは医療を受ける人である

### 平成28年熊本地震における 沖縄県災害派遣精神医療チーム(DPAT)活動報告会

琉球病院 知花 浩也(沖縄DPAT:業務調整員)

#### ○プログラム

- 1 DPAT設立と意義
- 2 熊本地震におけるDPAT活動概要
- 3 精神科病院患者搬送フェイズ
- 4 調整本部の役割、支援者支援の必要性
- 5 避難所支援フェイズ、熊本DPATへの引継ぎ
- 6 DPAT派遣における行政の役割
- 7 指定発言
- 8 沖縄県における大規模災害時のDPAT体制整備の方向性



平成28年8月9日(火)沖縄県医師会館にて熊本地震における沖縄DPATの活動報告会が行われました。県内から精神科医療関係スタッフをはじめ、自衛隊、消防、行政機関から延べ170名以上の方が参加されました。

今回の熊本地震では、沖縄DPATチームとして4月15日～6月29日(75日間)で5医療機関から延べ12隊62名が派遣されています。主な業務としてDPAT調整本部に入り、全国から派遣される全DPAT隊を統括し、DPAT事務局や他の医療チーム、行政機関と連携し調整する業務を担っていました。大規模災害でDPATが派遣されるのは熊本地震が初めてであり、もちろん調整本部の業務も初めてで、沖縄DPATは大きな役割を担っていたと思います(調整本部業務の詳細は琉球マンスリー 6月号に詳細を報告させていただいています)。避難所フェーズでは最も被害の大きかった益城町を担当し、現地保健師と一緒に活動を行っていました。

ただ、まだまだ課題も多くあります。今回の報告会でも県の担当者より「ロジスティクス(医療支援以外の調整等の業務:(例)連絡調整、情報収集)の強化が必要」との意見があり、また消防の方からは「DPATはどんな装備を持っているのか」との質問がありました。このころのケアは精神科医療に携わる方は専門であり、現地でも問題なく活動が行われていました。しかし災害現場での活動となるとDPATは装備不足、他医療機関との連携不足などの指摘もあり、平時から災害に備えた準備、訓練が必要であると感じました。このような報告会を機にDPAT活動が認知されることで、災害支援(精神科医療・こころのケア)の底上げ、ひいては県内の防災意識の高まりに繋がっていくと考えています。

最後になりましたが、本報告会を企画運営された担当者皆様へ感謝申し上げます。今後DPAT研修や災害医療関連研修で皆様にお会いできる事を楽しみにしています。

## 院長

福治康秀(ふくじ やすひで)  
1964年生まれ、那覇市出身、  
首里高校卒。  
1993年琉球大学医学部卒、  
琉球大学医学部精神神経科入局。  
95年那覇市立病院精神科、96年  
琉球大学精神神経科、2009年琉球病院精神科部長、  
2010年副院長を経て2014年琉球病院長に就任。  
日本病院・地域精神医学会理事。

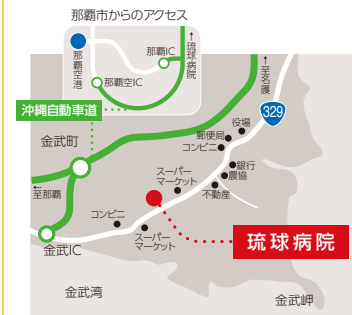


## 診療科

- ・一般精神科
- ・こども心療科
- ・物忘れ外来
- ・アルコール依存症等外来

## 病床数 406床

- ・精神科病棟 181床
- ・認知症 50床
- ・アルコール 54床
- ・児童思春期  
ユニット 4床
- ・重症心身  
障がい 80床
- ・医療観察法 37床



#### ●アクセス

路線バス/那覇BS(下)または名護BS(上)より沖縄バス  
[77番名護線]浜田バス下車徒歩3分  
自動車/那覇市から40分  
沖縄自動車道金武インターから名護向け5分

## トピックス

### 行事・ 出来ごと

- 病棟等建替整備の動き  
進捗状況 本体工事:新病棟(第1期工事)完成・・・平成27年7月  
新病棟(第2期工事)雨水配水管管替工事 完成予定・・・平成29年2月 重心病棟建替等工事 完成予定・・・平成30年10月
- ミニコンサート

### 教育・研修

日時:平成28年10月13日(木)13:30～15:00 場所:あしびなあ体育館 内容:二胡の演奏  
・CVPPP院内外トレーナーフォローアップ研修  
日時:平成28年10月24日(月)8:30～17:00 場所:研修棟会議室、ジム室

## ●地域医療連携室だより

当院では治療抵抗性統合失調症に唯一の適応をもつ抗精神病薬クロザピン(商品名:クロザリル)の専門治療病棟が平成27年7月に開棟いたしました。統合失調症は100人に1人がかかる頻度の高い精神疾患です。この中で複数の抗精神病薬を十分量・十分期間服用しても、精神症状の改善が見られないものを治療抵抗性統合失調症といいますが、これは統合失調症患者の約3割が該当すると言われています。現在、当院クロザリル専門病棟では約40名の方が退院に向け、クロザリルの治療を行っております。クロザリルの治療を希望される方、クロザリル治療についてお知りになりたい方は地域医療連携室が窓口となりますので、お気軽にお問い合わせください。(地域医療連携室:月～金 8:15～17:15 祝日・年末年始除く)



空床状況  
9月28日現在

精神科病棟  
3床

認知症  
3床

アルコール  
7床

児童思春期ユニット  
4床

※入院予約に関するお問い合わせは地域医療連携室へご相談下さい。

## お問い合わせ時間

8:30～17:15(土・日・祝日以外)  
TEL:098-968-2133(代)  
内線:231・234

地域医療連携室(直通)  
TEL:098-968-3550  
FAX:098-968-7370

## 治療抵抗性精神疾患への医療



### クロザピンの治療状況

平成22年に1例目のクロザピン(CLZ)治療を開始し、全症例は177例になりました。平成28年8月のCLZ導入は1例でした。これは他の病院からのご紹介例で入院中の患者様でした。CLZ治療前には暴力行為や多飲水などの問題行動のために隔離が必要な患者様も多くいらっしゃいましたが、CLZ継続例では問題行動も少なくなり、隔離は全て解除できています。週に3回の専門外来も行っていきますので、治療抵抗性統合失調症の患者様のご紹介をお願いいたします。

### m-ECT (修正型電気けいれん療法) の治療状況

当院では、m-ECT(修正型電気けいれん療法)による治療を行っております。平成28年8月の治療実績はありませんでした。

## こども心療科

当院での子どもの入院治療を充実させることを目的に、9月7~8日の日程で、国府台病院に多職種で見学に行ってきました。入院している子どもたちの背景は様々でしたが、多くが虐待やいじめなど、周囲の人との関わりの中で辛い体験を抱えており、入院治療として、はじめに大人(病院や学校スタッフ)との信頼関係を構築し、大人の支えの中で子ども同士のヨコのつながりを広げることを目指している、とお話でした。国府台病院では、集団の力を子どもたちの成長や治療に最大限に活用していることが特徴で、今回は毎月開催されている院内行事を見学しましたが、行事を通して子ども同士の交流が深まっていくプロセスを肌で感じることができました。

今回得た学びを各職種で共有し、当院での子どもの入院治療の更なる充実に向けて取り組んでいきたいと思っております。

## 認知症医療

認知症は20歳以降の病気で、同じ症状を示しても未成年者は発達障害として扱われます。これは医学的な区別というより法律的な、行政上の区別から来ています。未成年者は成長発達の途上なので、完成した人格の低下はあり得ないというのが理由です。これを根拠に児童福祉法による支援と精神障害者福祉法による支援が法的に区別されています。

ただ、世間では子供の認知症が話題となっています。正確な用語を使うと「デジタル・デメンチア」訳すと「デジタル認知障害」と表現されています。デジタルとはスマートフォンやパソコンを一番に考えますが、コンピュータープログラムを使ったゲームや音楽鑑賞も入ります。障害とされる認知機能や発生機序をここで詳しく述べることはできませんので、興味のある方はご自分で調べてみてください。テレビでも取り上げられ、本も出版されています。ネットで調べると「デジタル認知症」で賛否両論いろいろな意見が述べられています。

認知症との関係で押さえておかなければならないことは、「神経生物学の知見として、脳はその使用を通して絶えず変化し続ける」ということです。しかも「脳が常に学習しているとすると(脳には学習しないということができません)、デジタル・メディアで過ごした時間もまたその痕跡を残す」ということです。脳への刺激の入り方次第で、認知機能が良くなり悪くなります。デジタル・メディア自体が悪いのではなく、デジタル・メディアからの情報の受け取り方、生活の中でのデジタル・メディアとの付き合い方が問題という事です。解決策は脳の健康を保つ生活習慣を作っていく事が重要になってきます。

当院の認知症予防教室で行っていることも、脳に良い刺激を与える事と、脳に悪い刺激を与える生活習慣を少なくする事です。これは病院にリハビリで来た時だけ、いろいろな運動や作業を行って脳に刺激を与えるだけでなく、衣食住、休息や睡眠といった日頃の生活の中で脳を活性化させる生活習慣を身につけていくといったものです。今年4月から3ヶ月を1クールで始めました。現在2クール目が10月末までのプログラムで進行しています。3クール目は12月開始です。もの忘れが気になり、認知症を予防したいとお考えの方は当院地域医療連携室へお問い合わせください。

参考:マンフレド・シュピッツァー(2014) デジタル・デメンチア 講談社

## 重症心身障がい医療

今回はコミュニケーションの一つとして「挨拶」について書かせて頂きます。思えば子どもの頃から挨拶は大切だよ~!自分から挨拶ができる子になりなさいと育てられてきました。何故挨拶が大切なのでしょう。いろんな意味を持つかと思いますが、お互いに気持ち良くなる事や安心する事等もあげられるのではないのでしょうか。

毎朝、病棟に入ると「おはよう!」と元気良く挨拶してくれる方がおられます。職員同士にも挨拶がうまれ、やっぱり気持ちが良いものです。しかし表現する事ができない方も多くおられます。反応が乏しくみえても、語りかける事、優しく触れる事、思いやる事等、ご本人のなかでは何かを感じている事や思っています。支援する側の準備として整えておきたいと改めて感じます。

円滑なコミュニケーションは職場においても大切な事である事を経験します。周りとのつながりができればチーム力が良くなり支え合いがうまれる事が期待できます。足りないところを補いあい一人で抱え込ませない事が必要と考えます。いつもより10%元気を出して挨拶してみよう!

## アルコール・薬物依存医療

平成25年5月27日、アルコール依存症の新しい治療薬「レグテクト」が発売となりました。レグテクトは、アルコール依存症の方の強い「飲酒欲求」を直接和らげてくれる作用があります。当院では8月現在、外来通院の患者様68名、入院中の患者様34名の方が服用されています。内服している方は「飲酒欲求が軽減した」と話され、再飲酒の抑制につながっています。当院での実際の効果を判定するための調査を行う予定です。患者様へは、適宜導入を勧めています。断酒が困難な方は、ぜひ外来を受診し相談して下さい。

## 包括的地域精神医療 (ACT)

暦の中では秋を迎える季節になりました。沖縄では相変わらず30度を越す暑さが連日続き、まだまだ暑さ対策が必要です。9月になり台風の発生が多くなり、雨や風の対応もあります。訪問看護を利用している対象者様へ暑い時期の過ごし方や、強風時の対策等確認をしています。日々中・北部圏域を5~6チームで訪問看護活動を行っています。生活上で困ることや、体調面での相談等、地域の支援者の方々や連携しながら、利用者様、ご家族の方が困らないよう、地域資源の紹介ができるよう情報収集に努めています。

## 臨床研究部活動状況

統合失調症家族教室のお知らせ 心理療法室 山田豊

統合失調症の再発率は、その家族の関わり方に影響されるとの研究があります。そこで家族が正しい知識を得ることや、他家族との意見交流が出来るような家族教室が必要とされています。琉球病院の統合失調症家族教室は平成26年6月より開始し、多くのご家族に参加していただきました。参加したご家族の感想としては、「薬の副作用で体重が増加することについて知ることができてよかった。食事のバランスを考えていきたい」、「いろいろ不安なので、他家族の話を聞いて安心材料としたいです」などがありました。今後も再発予防につながるような家族教室を実施していきたいと思っております。ご家族のみなさまの参加をお待ちしております。

統合失調症家族教室 対象:当院に通院・入院している患者家族様 日時:奇数月の第3金曜日13:30~15:00予定 連絡先:医療相談室まで